

第3部会	分野	学び
------	----	----

A 欄に関する意見メモ

《**現基本構想の進捗検証・評価**》

- この 15～20 年の間に、学校が地域に開かれている度合いはすごく進んできており、地域の多様な人と子どもが触れられる状況がつくられていると思う。
- 各学校が、地域力を生かしながら、地域住民と共に特色ある教育を行っている。
- ボランティア・サポートする人の高齢化が進んでいる。
- ある尺度で多様性や個性を削ってしまい、縦の序列化に組み替えてしまう動きがとても強い社会になってしまっている。
- 学校教育の目標は学問での学びに重点が置かれてしまう。そこには序列があり、日本は特に偏差値で序列をつくるのが定番化しているため、序列化が強い。

《**今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点**》

- 世界的に若者たちの居場所がない、自分が社会にどう関わりをもって生きているのかという実感が沸かないといった傾向が強くなっている。
- 今の社会は格差が広がっており、子どもたちがこれから出ていく社会はさらに格差が広がっている社会だと思う。
- 今は縮小する社会に入ってきている。量ではなく質が問われてくる社会であり、評価の在り方や概念、感覚も変えなければならないのかもしれない。
- 特定の職種だけが取りはやされるのではなく、それを支える人たちの格好良さにフォーカスするなど、もっと選択肢があると見せられる社会が良い社会だと思う。
- 負け組だと言われていたような人も、普通に生活をして、大人になってからも1つ1つ学んでいけるのか、置いていかれない社会というのが必要だと思う。
- 今までは、ある程度正解があり、そこを目指していたが、これから先の社会は何が正しいかわからない。
- 自己責任論にとらわれてしまっているところがある。

B 欄に関する意見メモ

《**目指すべきまちの姿**》

- 人生 100 年を生き抜く力を育む（正解のない社会を自ら切り拓き生き抜く力を育む）まち
- 学び直し、やり直しができる、失敗してもまたチャレンジできるまち
- 何かすることが評価されるのではなく、そこに居ることが認められるまち
- 社会の中で他者と学び合い、教え合いながら自分の人生をつくっていけるまち
- 地域の中での体験を通し、多様な価値観や選択肢に触れることのできるまち

《**目指すべきまちの姿を設定した考え方など**》

- 学び直しができる社会、失敗しても別の道で再チャレンジができる社会が必要
- 正解のない社会をどう我々が生きていくのか。
- 今の物差しでは考えられない内容がどんどん出てくる中で、自分で動けるエンジンを持つ子どもにどう育てるか。
- 「自分で学ぶ」力を養い、「共に学ぶ」と並行していくのが理想的なスタイル。
- ダメならやり直せると思えて、自分なりの人生を生きられる社会。
- 色々な出会いとか関係性のある様々な場面を経験させる、そういうところを一つの基本にしないといけない。
- 自分で選んで、自分で決めた、だからこれでいいという感覚が最も大事。

C 欄に関する意見メモ

《**基本的な取組の方向性**》

- 学校教育は人生 100 年のうち、初期の 20 年間しか関わっていない。その後の 80 年をどう生きるかということを含め、100 年を生きる力をつけていかなければいけない。
- 100 年生きたいと思えるのも大事である。
- 目標に達せなくても、一人ひとりがそのポジションにいて満足し、自分の中で納得できる人生を歩めることが大切。
- 学びに向かう力、努力する力を身に付けてほしい。
- 自分で、または仲間と一緒に、状態を変えていける、変えていこうとする気持ちを持つというのが大事である。

○60 歳や 80 歳、色々な時期に学び直しの機会が提供されることが求められている。

○正解がない社会になっていく中では、大人も学んでいかなければならない。

○何かすることが評価されるのではなく、そこに居ることが認められる社会を作っていく。

○褒められる、認められるといった自己肯定感が高まっていくことによって子どもたちは努力していく。目標を持って努力することのできるような関わり方のある社会が求められていく。

○子どもたちが地域の色々な人と関わり、単一の生き方や職業ではなく、色々な生き方があるということを経験できればよい。

○子どものうちから多様な価値観に触れてほしい。

○実体験を通した学びの機会がたくさんあると良い。

○学校の門が開かれ地域住民が入っていくことが、今後さらに求められていく。

○大人の学び、生涯学習という面で、公の施設だと、今は区民センター・集会所が活動の場となっている。地域のシンボリックな施設である学校を今まで以上にどこまで活用していけるのか。

○夜間学校のようなところで、地域の中で色々な人材も活用しながら、学びあい、教えあう関係をつくる。

○自分たちの住んでいる地域の学びの中から、プライドが持てたり、地域への愛着が出てくるといった学びもあると良い。

○学びに到達できない、学びが保障されていない人たちもいるとなると、教育だけでなく福祉の議論も入ってくる。そういった部分も教育側として、しっかり役割分担していくことが必要。

○情報リテラシーというのも重要だと思う。今の社会では、情報を鵜呑みにして行動へ走るといのように、自分の中で解釈し考えることができていると思う。

《**具体的な手段・方法、取組など**》

- 子どもたちが自信をもって生き抜いていくために、大人が見本を見せていかなければいけない。目指していたものはだめでも、別の形で成功しているのを見せるのが、子どもの自信を取り戻す方法ではないかと思う。
- なりたいたいものになれなくても、孤独に戦うのではなく、色々な交流をする中で、新しい道を見つけたり、方向転換することが保障される社会の在り方を考えられないか。
- これだったら向かっていきたいというものを見つけられるような多様な体験ができる機会を準備したい。

○大人が、自分の正解ではなく、みんなで作る中で納得したものを作り上げていくというプロセスを経験できているということが重要。

○落ちこぼれでも、味わいや誇りなどがあり、そういったことに目を向けてあげることが大切。

○小学校の放課後の時間を使ってアクティビティを提供する。子どもが自ら選び、頑張ったと思えること、もしだめでもそれで良かったと思えることが大切。

○校庭でのプレーパークや空き教室での理科の実験教室など、学校がもっと多様に使われてもいいのではないか。

○ボランティアとかサポートすることを日常的にできる仕組みを 10 年ぐらいかけて作っていく必要がある。

○ドイツから取り入れた子どもキャンパスを実施したことがあるが、大学に地域の子どものを招き、子どもたちは本物の事をそこで学べて、興味関心が生まれていた。

○郷土博物館の展示等を通して杉並を学んでいくというのが、大人の生涯学習を超えて、小中学校にあっても良い。それが、まちを良くするようところに興味としてつながると思う。郷土博物館のような場所を活用していくのも良いと思う。

○ごはんが食べられない子たちに、地域の人たちが朝食を作り学校で提供する。

○早起きのお年寄りと一緒に学校で朝食を作り、一緒に食べるのか、そこで朝食も保障されるといった取組も面白い。

○情報を鵜呑みにするのではなく、自分の中で消化できるというリテラシーの教育が必要ではないかと思った。

○情報から面白さを見出す方法を教えてあげるといのも重要なことかなと思った。